日本語訳『Qiskit Textbook』 勉強会第1章1.1-1.2節



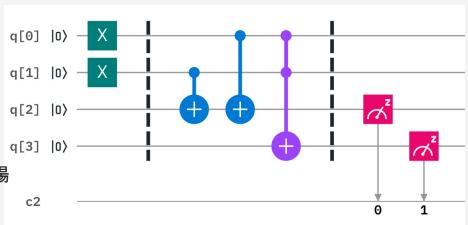
Yuri Kobayashi Quantum Developer Community

1.1節と1.2節について

- 1.3節と1.4節に比べてボリュームが格段に少ないです。
- メインコンテンツ:
 - ・ 古典コンピューターの計算は量子ゲートで再現できる
 - ・ 量子回路作成のステップ
 - 回路作成の演習「半加算器のつくり方」

1.1 はじめに

- ボールやバナナ vs 量子
- 「ビット」とは? 英語のbitが複数の意味を持っていることを知らないと面白くない話
 - 《工具》ビットドリルの先端に取り付ける交換式の刃
 - 《馬具》はみ
 - 《情報量の最小単位》0または1
- 量子ビットの世界 異なるルールに従う
- 量子回路とブロッホ球の図
- 量子回路の説明はここではないが1.2に改めて登場



1.2 計算の原子

情報をビットに分割する

10進数:10を底(基準)として数を表す方法

2進数:2を底(基準)として数を表す方法

具体例: 9213の10進数表現 (9×10³) + (2×10²) + (1×10¹) + (3×10°)

9213の2進数表現 9213 = $(\mathbf{1} \times 2^{13}) + (\mathbf{0} \times 2^{12}) + (\mathbf{0} \times 2^{11}) + (\mathbf{0} \times 2^{10}) + (\mathbf{1} \times 2^{9}) + (\mathbf{1} \times 2^{8}) + (\mathbf{1} \times 2^{7})$

$$+(1\times2^6)+(1\times2^5)+(1\times2^4)+(1\times2^3)+(1\times2^2)+(0\times2^1)+(1\times2^0)$$

													20
1	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1

練習問題

練習問題:

- 1. 好きな数字を考えて、2進法で書いてみてください。
- 2. *n*個のビットがあるとしたら、それは何種類の状態になるでしょうか?

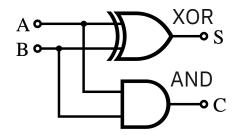


Localに落としたQiskit Textbookでウイジットを使うには

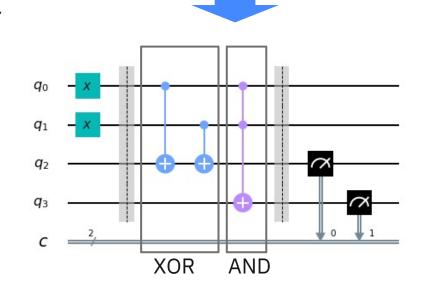
自身のqiskit-textbookのディレクトリー上で pip install -e ./qiskit-textbook-src を実行すると qiskit-textbookがインストールされます。

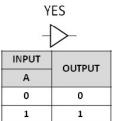
ダイアグラムを使った計算

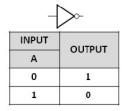




加算回路







NOT



INF	PUT	OUTPUT	
Α	В	COIPOI	
0	0	0	
1	0	0	
0	1	0	
1	1	1	

INI	PUT	OUTPUT			
Α	В	001701			
0	0	0			
1	0	1			
0	1	1			

1

OR

INI	PUT	ОИТРИТ	
Α	В		
0	0	0	
1	0	1	
0	1	1	
1	1	0	

XOR



INI	PUT	OUTPUT				
А В		OOIFOI				
0	0	1				
1	0	1				
0	1	1				
1	1	0				



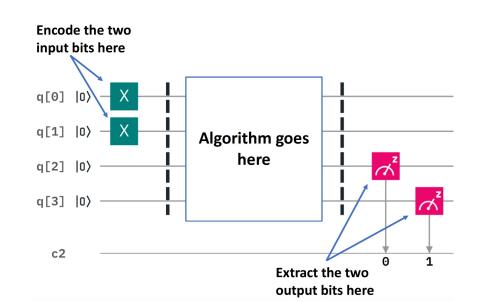
INI	PUT	OUTPUT			
Α	В	OUIFUI			
0	0	1			
1	0	0			
0	1	0			
1	1	0			



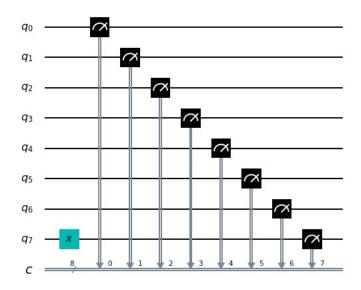
IN	PUT	OUTPUT
Α	В	OUIPUI
0	0	1
1	0	0
0	1	0
1	1	1

量子回路を作成するには3つのステップが必要です。

- 1. 最初に入力をエンコードする
- 2. 実際の計算を行う(量子ビットに何かしらの操作をする)
- 3. 最後に出力を抽出する(測定)



次の回路をQiskitで組んでみましょう。



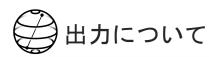
```
qc = QuantumCircuit(8,8)
qc.x(7)
for i in range(8):
    qc.measure(i,i)
qc.draw()
```



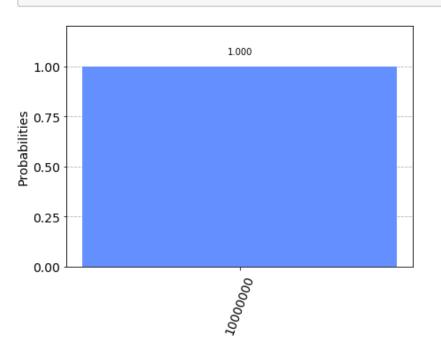


教科書の中のコード

```
n = 8 #量子ビットの数を定義
n q = n #量子レジスタを定義
n b = n #出力結果を保存するための古典レジスタを定義
qc_output = QuantumCircuit(n q,n b) #'qc_output'という名の出力用回路を作成
for j in range(n): #'qc output'に測定を追加し、量子ビット`j`の出力を古典レジスタ`j`に書き込むよう指示
   qc output.measure(j,j)
gc encode = QuantumCircuit(n) #'gc encode'という名の入力用回路を作成
qc encode.x(7) #8番目の量子ビットにxゲートを置く
qc = qc encode + qc output #入力用と出力用回路を連結した最終的な回路'gc'を定義
qc.draw(output='mpl', justify='none') #'qc'回路の描画
counts = execute(qc,Aer.get backend('qasm simulator')).result().get counts()
plot histogram(counts) #'qc'回路のシミュレーターによる測定結果をカウントしてヒストグラムにプロット
```



counts = execute(qc_output, Aer.get_backend('qasm_simulator')).result().get_counts()
plot_histogram(counts)



 $q7(8番目の量子ビット) にXゲートが 適用されて該当ビットが<math>0 \rightarrow 1$ に反転して います。

※Qiskitでは文字列のビットに右から左に順番に番号をつけます。一般の教科書とは逆のため注意が必要。

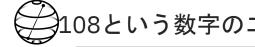
練習問題

好きな数字をエンコードしてみましょう。

例. **108** という数字をエンコードします。108のバイナリ表示を検索。

108 = 0b1101100 (「0b」が含まれていたら無視.ここでは0に置き換え)→01101100

先ほどの回路に量子ゲートを適用してエンコードみましょう。



108という数字のエンコードの仕方(例)

```
qc encode = QuantumCircuit(n)
qc encode.x(2)
qc encode.x(3)
qc encode.x(5)
qc encode.x(6)
qc = qc encode + qc output
counts = execute(qc,Aer.get backend('qasm simulator')).result().get counts()
plot histogram(counts)
```

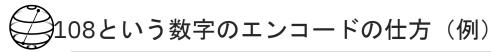
練習問題

好きな数字をエンコードしてみましょう。

例. 108 という数字をエンコードします。バイナリ表示は何かを検索。

108 = 0b1101100 (「0b」が含まれていたら無視.ここでは0に置き換え) → 01101100

先ほどの回路に量子ゲートを適用してエンコードみましょう。



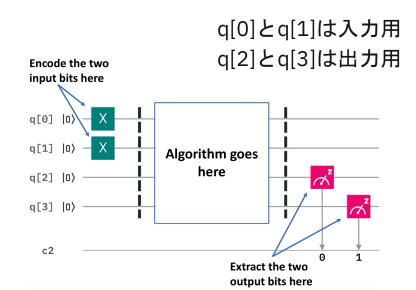
```
qc_encode = QuantumCircuit(n)
qc_encode.x(2)
qc_encode.x(3)
qc_encode.x(5)
qc_encode.x(6)
qc = qc_encode + qc_output
counts = execute(qc,Aer.get_backend('qasm_simulator')).result().get_counts()
plot_histogram(counts)
```

ビットの足し算について(半加算器のつくり方)

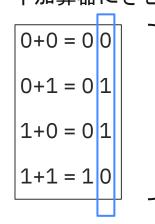
- 10001111111101
- + <u>00011100111110</u>
- = 10101100111011







どのようなゲートが必要かを考えるためにもう一度半加算器にさせたいことをみてみましょう。 半加算器にさせたいこと

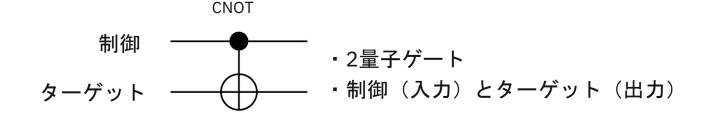


2つのビットが同じときは「O」 2つのビットが異なるときは「1」

- → 足し合わせる2つのビットが同じか異なるかを判断できる論理ゲートがあればよい → XORゲート
- → 量子論理ゲートではCNOT Qiskitでは cx と書く

							
INI	PUT	ОПТРОТ					
Α	В	OUIPUI					
0	0	0					
1	0	1					
0	1	1					
1	1	0					

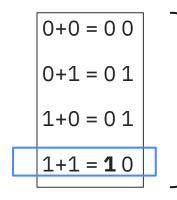
XOR



```
qc ha = QuantumCircuit(4,2)
# 量子ビット0と1に入力値をエンコードする
qc ha.x(0) # 入力値 a=0のときは除く.入力値 a=1のときは残す
qc_ha.x(1) # 入力値 b=0のときは除く.入力値 b=1のときは残す
qc ha.barrier()
# cnotをつかって入力値のXORした結果を量子ビット2に書き込む
qc ha.cx(0,2)
qc ha.cx(1,2)
qc ha.barrier()
# 結果を抽出する(測定)
qc ha.measure(2,0) # XORした結果を抽出
qc ha.measure(3,1)
                        最後のビットがまだ
                             残っています
qc ha.draw()
```

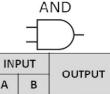
残された最後の量子ビットq3にどのようなゲートが必要かを考えましょう。

半加算器にさせたいこと



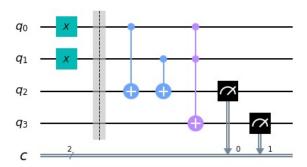
4つの組合せのうち唯一「1」になるのは 1 + 1の時のみ 上記以外は「0」

- → 足し合わせる2つのビットが両方とも「1」かを判断 できればよい
- → 論理ゲートのANDゲート
- → 量子ゲートのトフォリ(Toffoli)ゲートに相当
- → Qisktiではccx と書く

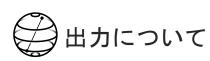


INI	PUT	OUTPUT				
А В		OUIFUI				
0	0	0				
1	0	0				
0	1	0				
1	1	1				

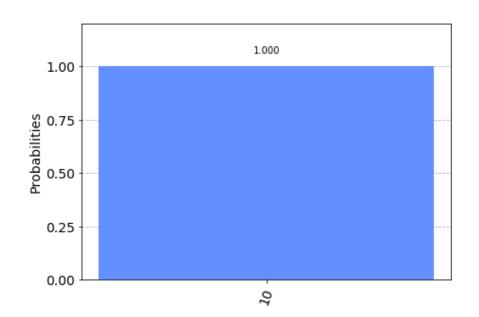
```
qc ha = QuantumCircuit(4,2)
# 量子ビット0と1に入力値をエンコードする
qc ha.x(0) # 入力値 a=0のときは除く.入力値 a=1のときは残す
qc ha.x(1) # 入力値 b=0のときは除く.入力値 b=1のときは残す
qc ha.barrier()
# cnotをつかって入力値のXORした結果を量子ビット2に書き込む
qc ha.cx(0,2)
qc ha.cx(1,2)
# ccxをつかってふたつの入力値のANDをとった結果を量子ビット3に書き込む
qc ha.ccx(0,1,3)
# 結果を抽出する(測定)
gc ha.measure(2,0) # XORした結果を抽出
qc ha.measure(3,1)
qc ha.draw()
```



1+1の結果をみてみましょう



counts = execute(qc_output, Aer.get_backend('qasm_simulator')).result().get_counts()
plot_histogram(counts)



$$1 + 1 = 2$$

1.1と1.2章のまとめ

- ・ 古典コンピューターの計算は量子ゲートで再現できる
- ・ 量子回路の作成は以下の3ステップ
 - 1. 入力をエンコードする(入力)
 - 2. 量子ビットを操作する(計算)
 - 3. 最後に出力を抽出する(測定)
- ・ ここまでのところで「量子的」な要素はゼロです。笑

おまけ

全加算器について

下の位からの桁上げを入力として含む「全加算器」の作り方を知りたい人は昨年度のIBM Quantum ChallengeのWeek 1の演習をおこなってみてください

IBM Quantum Challenge 2019

https://github.com/quantum-challenge/2019

今年のIBM Quantum Challenge (5/8に終了) にもよかったら挑戦してみください。

https://github.com/qiskit-community/may4_challenge_exercises

Thank you

Yuri Kobayashi Quantum Developer Community yurik@jp.ibm.com

© Copyright IBM Corporation 2020. All rights reserved. The information contained in these materials is provided for informational purposes only, and is provided AS IS without warranty of any kind, express or implied. Any statement of direction represents IBM's current intent, is subject to change or withdrawal, and represent only goals and objectives. IBM, the IBM logo, and ibm.com are trademarks of IBM Corp., registered in many jurisdictions worldwide. Other product and service names might be trademarks of IBM or other companies. A current list of IBM trademarks is available at Copyright and trademark information.